

質問

地元購買率アップに注力を

町長

様々な支援、対応をしていく



内田 雅人 議員

質問 総合戦略で地元購買率はC評価だ。まず学校給食における地産地消率は目標35%に対して昨年25.8%と開きがある。目標達成のための具休策はないか。

町長 需要に対して生産量が少ない状況だ。高齢化と後継者不足により手立てが見通せないが、給食会への地元農産物の

臨機応変な納入の対応を要望していく。
質問 プレミアム商品は今年6割しか交換されなかった。消費喚起、活性化からすればもったいない実績になった。今後どのように行うのがベストと考えるか。

町長 商工会と検討し、今年の特典を10%に下げ発行枚数を

2倍にした結果、6割の引き換え率となった。この実績を詳しく分析し地元消費拡大について検討していく。

町長 商工会と検討し、今年の特典を10%に下げ発行枚数を

る形での実施を求め
町長 国の施策でいくら交付されるかわからないが、しっかりと検討し来年度も支援をする。

町長 高齢化による生産量の減少が課題であり、若い方に栽培に取り組んでいた

質問 奥出雲町は生産者、生産地としての質は高く、それだけに地元消費だけでなく他地域での消費拡大は大きな戦略だ。物流コストが大きなネックだが、他の自治体や県と連携して削減する手立てを考えられないか。

町長 運送費値上りの負担は限界にきている。
雲南地域一体での取り組みを進め、県や国にも物流対策の支援をお願いしている。連携を図り早い対応をしていきたい。



給食は食育の観点からも地元産品の割合を増やしたい



地元の食材をさらに活かし直売所の活性化を

町長 道の駅も一生懸命対応しているがやはり生産者の高齢化が課題だ。

再質問 道の駅にも地元産の生鮮野菜や加工品の割合を増やせないか。

その他の質問

被災者支援システムの導入と活用について。